科学研究費助成事業

「カタストロフィの想像力:ドストエフスキー文学の現代的意味とその世界展開」

Kaken "Imagination of Catastrophy; Comtemporary Meaning of F. M. Dostoevsky and its World Expantion"

International Dostoevsky Workshop at TOKYO "Karamazov and Us"

ドストエフスキー国際ワークショップ

「『カラマーゾフの兄弟』の世界性」

来る2021年、フョードル・ドストエフスキーは生誕200年を迎える。その喜ばしいときを前に、世界の文学愛好者の間 にドストエフスキー・ルネサンス到来の予感が生まれつつある。AIやバイオテクノロジーが支配する現代社会にあって なお、ドストエフスキーの文学は、なぜこれほどにも私たちの心をとらえるのか。本ワークショップでは、『カラマーゾ フの兄弟』を中心として、その「現代的意味」そして「世界性」とは何かについて考える。

19:00~21:00 (開場 18:45)

会場 東京堂ホール

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町1丁目17 東京堂書店6階

19:00~19:25 報告1

「ドストエフスキーと金」

亀山郁夫(KAMEYAMA Ikuo 名古屋外国語大学)

報告2 19:30~20:15

「《信仰の象徴》としての『カラマ:

パーヴェル・フォーキン

(Pavel Evgenievich Fokin ロシア国立文学博物館)

同金維 沼野 充義(NUMANO Mitsuyoshi 東京大学)

『パネリスト 亀山 郁夫 (KAMEYAMA Ikuo 名古屋外国語大学)

剛(KOSHINO Go 東京大学)

パーヴェル・フォーキン

Павел Евгеньевич Фокин (Pavel Evgenievich Fokin)

・ニングラード生まれ。 現在、ロシア国立文学博物館研究員、 モスクワ・ドストエフスキー博物館長。カリーニングラード大学出身。ロシ アドストエフスキー協会員、国際ドストエフスキー協会員。プーシキン、ド ストエフスキー 励云貞、国際「ストエフスキー加云貞。ノーン・イン、ト ストエフスキー、ローザノフ、ソルジェニーツィン、A・ジノヴィエフらについて100を越える論文を執筆、先鋭な問題意識と博覧強記を武器に「むきだしの古典」シリーズでは15 冊におよぶ著書を執筆している。ドストエフスキー関連の著書としては、「むきだしの古典」シリーズのもの以外に、『ド ストエフスキー再読』(2013)が知られる。 また、ウラジーミル・ヴィソツキー 全集の編纂者としても知られる。最新著としては、「偉人伝叢書」の一巻と して出た『アレクサンドル・ジノヴィエフ 追放されたプロメテウス』 (2016) が話題を呼んだ。

日本ドストエフスキー協会 シンポジウム参加申込フォーム https://req.qubo.jp/wlac/form/20200220

当日参加も可能ですが、準備の都合がありますので、事前のお申込みをお願いいたします。 右記の OR コードを携帯電話やスマートフォンで読み込んで頂くか

上記 URL をパソコン等で直接入力して、フォームに必要事項を入力、送信してください。



DSJへの入会を歓迎します。

希望される方は、氏名、住所を添え、以下のアドレス宛にお申し込みください。

Email: dsjn_gg@nufs.ac.jp

*なお、お差し支えがなければ、ご職業、ご年齢もお書きいただけましたら幸いです。
* 2019年 10月 1日現在、会員数 320 名

Dostoevsky Society of Japan



● 通訳付 北川 和美

入場無料 申し込み要 なお当日参加も可

問合せ先 日本ドストエフスキー協会

mail: dsjn_gg@nufs.ac.jp